

日刊 動労千葉

87.1.7

No. 2446

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六・（公衆）〇四七二二二七二〇七

「設立委員に聞け」「局でも判らない」…… 「意思確認書」でテタラメ極まりない現場当局

こんなやり方で屈服すると思ったら大間違いだ、

国鉄当局は、昨年十二月二四日より職員の進路希望を調べるための「意思確認書」を現場において全職員に配布し、一月七日までに集計する作業を行ってきたが、「新会社」の「採用基準」や「労働条件」が設立委員によって労働組合との話し合いも、提案すらもなしに勝手に決められたが故に現場においては職員に説明すらできず、あげくに「局でも説明できない」などと無責任きわまりない対応しかできないでいる。こんなふざけたことがまかりとおってよいか。断じて否である。

つぎつぎとあばかれていく ペテンと破綻

国鉄当局・設立委員会は「意思確認書」に先立って「新会社」や「清算事業団」の雇用・労働条件を労働組合との団体交渉もなしにわれわれ国鉄労働者にとってなんの関係もない、財界のボスどもによって全く一方的に、しかも勝手に決めようというのである。

清算事業団は初年度から二兆円を超える赤字となることが必至であること。三島、貨物会社ばかりか全新会社の経営はなりたたないこと。整備新幹線、用地売却など利権をめぐる財界・自民党のえげつない動き。そして、雇用確保のメドすらついていない。なによりも、「膨大な赤字を解消するための国鉄改革」と称して開始されたにもかかわらず、実際には、三十七兆円もの長期債務を清算事業団、新会社に「処理方法は今後検討」というペテン的やり方で振りわけただけなのだ。

国鉄問題は何も結着がっていない。話し合いも質問も受けつけず「振りわけ」を強行

にもかかわらず、職員の差別・選別一首切りの振りわけだけを開始した。

中曽根、杉浦に何ひとつ成算があるわけではない。だからこそ労働組合を無視した暴力的な攻撃に訴えてきたのである。

当局は、「新会社」については団体交渉として提案したのではなく単なる資料を渡すだけ、といっている。「清算事業団」や「新会社」がどのようなものかも明らかにされず、全く訳のわからない中で組合側に「資料」を渡すだけ、というのだ。「意思確認書」を配る現場当局には職員に「判断材料」として十分に説明する義務がある。当然、疑問もでる。しかし、現場当局は右往左往するばかりで、説明すらできず、「『確認書』の書き方は説明するが、『資料』の中身については説明できない。局でも説明できない」と開き直る始末であった。

敵の横暴許さず、 団結してかちぬこう

労働組合との話し合いも、職員の疑問・要求をも受けつけない、労働組合すら認めない、こんなやり方を許しておいていいわけがない。暗黒の時代に労働者はつき落されてしまう。

まさに、この一月二月が正念場だ。全力で闘いぬこう。